

カタチは機能から生まれる。

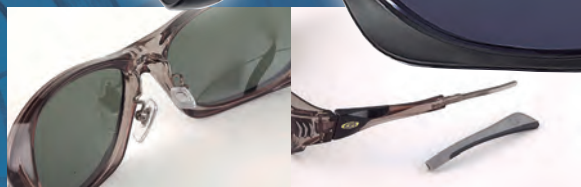


必要だから創るという
スタンスから開発された

ストームライダー・6カーブモデル

『ブルータル』
今夏発売
決定!!

6年前のデビュー以来、本誌企画“タックル・オブ・ザ・イヤー”
グッズ部門の上位に常にランクされ続けている「ストームライダー」。
バスフィッシングが大好きな、メガネ屋さんの開発スタッフが
心血を注いで創り上げた2年ぶりの新作に注目したい。



鼻あてや耳かけ部(ラバー製パーツ内部)には、軽く調整可能かつ耐久性に優れたチタンを採用。釣り具店で購入したもので、愛用の直営店に持ち込めばスタッフがベストな掛け心地に調整してくれる。また、各パーツはリペアや交換も可能だ。



フロントリムの上下にシェードを設けており、眩しさや紫外線、花粉などを防ぐ構造になっている。また、無意識に下向きで置いてしまってもレンズ面に傷が付きにくいようデザインされている。

こめかみ部分にはブルータルの名にふさわしいデザインでベンチレーション機能を搭載。シリコン製パーツは脱着可能であり、装着時は花粉やホコリの侵入を防いでくれる。

※写真はプロカラーです。

標準装備のレンズは、
フレームデザインに
マッチするカラーで統一!!



SR-017P-1

●レンズカラー:テンダーグレー

極めてナチュラルで違和感がなく、朝夕のマズメ時など光量が少ない場面でも活躍。最初の1本はこれがオススメ(可視光線透過率37%・偏光度90%)。●フレーム:パールブラック×ブルー/マットブラック●価格:1万6000円(税抜き)

SR-017P-2

●レンズカラー:G-15

レイバンの定番色に近いカラーであり、可視光線全域をほぼフラットに制御したうえでコントラストを強調(可視光線透過率18%・偏光度99%)。●フレーム:パールブラック×ブルー/マットブラック●価格:1万6000円(税抜き)



SR-017P-3

●レンズカラー:マロンブラウン

遮光性と視認性をバランスよく得られ、光量のある環境下、明暗が出にくい水質でシルエットをはっきりさせる(可視光線透過率24%・偏光度99%)。●フレーム:マットブラック×レッド/パールブラック●価格:1万6000円(税抜き)

SR-017P-4

●レンズカラー:スレートグレー

色調を変えずに光量をカット。対象物の輪郭がはっきりするクリアウオーターで、光の多い時間帯に適している(可視光線透過率20%・偏光度99%)。●フレーム:マットブラック×レッド/パールブラック●価格:1万6000円(税抜き)



琵琶湖ガイドからも信頼を集める
ストームライダー

琵琶湖の超人気ガイドにも愛用者は多い(写真左上から時計回りに、奥村哲史さん、永野総一朗さん、西平守良さん、藤波和成さん)。毎日湖上で過ごす彼らにとって、偏光サングラスは仕事道具のひとつ。ストームライダーを選ぶ理由がそこにある。

「愛眼」と聞くと、TVコマーシャルのキャッチーなフレーズを思い浮かべる人も多いだろう。1941年に創業、国内に236店舗ものチェーンを展開する老舗のメガネ屋さんだ。

その愛眼が、フィッシング用偏光サングラス「ストームライダー」シリーズを発表したのは6年前のことである。偏光ブランドとしてはまだ若いですが、それ以前にライフスタイルやシーンに合わせたさまざまなアイウェアを何十年間も手掛けてきたのであって、同社の経験値の高さはいわずもがな。しかもバスフィッシングにどっぷりとはまっているスタッフが開発に携わっているとなれば、良いものがないはずがない。

メガネ屋のこだわり

後発でありながら、ストームライダーがデビュー当初から多くのアングラーに支持されている理由は、「メガネ作りで培ってきたノウハウを注ぎ込んだ信頼性の高い偏光」というイメージと、買いやすい価格設定にあったに違いない。そしてそれらはまさに、ストームライダーの開発コンセプトそのものである。

見るという絶対的な情報収集器官を補助するメガネは、利用者にとって朝起きてから夜寝るまで必要不可欠な道具だ。そう、ストームライダーのフレームはメガネニューザーのニーズを満たすレベルで仕上げられているのである。たとえば、メガネと同様に金属パーツを介した鼻あてを用い、耳かけ部の芯にも金属パーツを内蔵(どちらも素材はチタン)。自分の顔に合った

微調整ができるのだから、掛け心地の良さは推して知るべし(直営店に持ち込んだのフィッティングも可能だ)。レンズは、耐久性に優れたポリカーボネート素材を採用。メガネ県・福井製である……といった具合。そんなスベックを持つ偏光サングラスが、実勢価格で1万円台前半となれば、人気が出るのは当然と言える。

2年ぶりの新作
『ブルータル』

そのストームライダーシリーズに、今夏、新たなラインナップが加わる。既存の、基本形である4カーブモデルとスポーティーなハイカーブモデルの間を埋める、6カーブの「ブルータル」がそれだ。名前のとおり、ワイルドで攻撃的なデザインの

独特なフレーム形状は、4カーブに近い掛け心地でありながらハイカーブなみの広い視野を確保している。リラックスワイドサイズのため顔幅の広い人にも窮屈さを与えない。

カタチは機能から生まれる。これは、愛眼の設計思想だ。だからストームライダーシリーズはラインナップをむやみに増やしたりはしない。毎年、新作を発表することもない。既存ラインナップに関して細部の仕様変更や素材のアップデートは随時行なっているが、フレームやパーツの金型自体はデビュー当時から変わっていない。言うまでもなく、それが完成された形だからだ。

本当に必要なと思えるものだけを創る。そんなメガネ屋さんのこだわりが、2年ぶりの新作「ブルータル」にも詰まっている。